

## 仲間を増やし、職場に「働くルール」の確立を

### 近畿地協第12回定期大会

10月21日(土)、大型台風21号が接近するなか、近畿地協第12回定期大会が京都市「ホテル本能寺」で開催され、代議員・役員など29人(委任状6含む)が参加しました。

主催者を代表して岡野議長は「神戸製鋼・東芝など大企業の不祥事が続いている中で、現場では個人が尊重されず、上からの命令で自己決定ができない人づくりが進められている。自分ファーストで、意に沿わない者は排除するような社会を変えていこう」と挨拶しました。



続いて来賓として、地元の労働組合から京都総評・池田事務局長、大阪労連・川辺議長、金融労連本部・田畑書記長から、衆院選を翌日に控え政治・経済情勢や職場での活動を踏まえた激励のあいさつを受けました。

昼食休憩をはさんで、阿部事務局長より「たたかひの総括とすすめ方」の提案、伊藤事務局次長より「決算報告」と「予算案」の提案を行った後、討論に移り9名の仲間が発言しました。

討論では、「組合を大きくするために、必要な活動を明確にして組織拡大に取り組みたい」「人事制度改定の導入に対して、全労働者を視野に一定の修正をさせることが出来た」「パワハラを受け組合に加入、組合の人数を増やして要求を勝ち取っていききたい」「パワハラ防止に向けて、団体交渉で個人面談時の録音が認められ、ボイスレコーダーを設置したもとの面談は穏やかな言葉で以前より早く終了するようになった」「嘱託職員が60歳で雇い止めを通告され、組合の交渉で65歳までの雇用が実現できた」「公開されている企業情報を時系列で分析し、交渉時にはその資料を提示して活用している」「エリア制の導入強行で女性4人だけの店舗が作られ、労働基準法さえ守られなく

なっている」「合併以降、非正規の健康診断やインフルエンザ予防接種の補助までなくなった」等々、成果や職場実態、組合活動の大切さが報告されました。

解雇撤回を闘っている大阪シティ信金の尾形さんは「職場に組合がないと、パワハラもやりたい放題の状況になり、人事部と支店長が結託して心の病を訴えても、何ら対応してもらえなかった」「支店にビラを配布するとほとんどの人が受取ってくれ、近隣の人たちにも配っている」などと報告しました。

全議案を満場一致で採択し、新役員選挙の開票時間を利用して、10月4日に結成された「大阪シティ信金 尾形さんを支援する会」の辻会長より会への加入が訴えられました。

新役員を選出した後、退任のあいさつを行った福井前副議長から、長期にわたる組合活動の思い出話も披露され、会場が感動するなか、岡野議長が新役員を代表して決意表明を行い、松島副議長の音頭でガンバローを三唱し閉会しました。



大会で選出された新四役は次のとおりです。

議長	岡野 展子 (池田泉州銀行従組)
副議長	松島 照男 (金融ユニオン・大阪分会)
事務局長	阿部 正巳 (京都北都信金従組)
事務局次長	伊藤 宗孝 (金融ユニオン・直属分会)

#### 祝電・メッセージをいただいた労組・諸団体

●大阪医労連●大阪自治労連●京商連●建交労大阪府本部●国労大阪地方本部●国家公務員労働組合大阪地区連合会●滋賀県労連●自交総連大阪地方連合会●JMITU大阪地方本部●生協労連大阪府連合会●全大阪消費者団体連絡会●大正銀行従組●武生信金職組●金融労連中国四国地協●金融労連東京地連●奈良県労働組合連合会

ありがとうございました。

# 福井さん、長い間お疲れさまでした

## 福井副議長退任の挨拶から

本大会での議論を聞いていて、一言申し上げたい。京都北都信金における二つの組合の違いは、労組（第二組合）が、組合員セクトというか、考え方としては基本的に組合員のことだけしかしない所であり、我が従組（第一組合）は、常に全従業員のことを考えた対応を行うということが歴史的に見てもハッキリしている。がんばれば乗り越えることができると思うので、是非がんばっていただきたい。

## 近畿地協第12回定期大会



私は1970年に信金に入った。翌1971年に旧・全信労に加盟したので、単産で全国の仲間とがんばってきたのは46年間ということになる。30歳から7年間、全信労の中央執行委員をやってきた。その後38歳から現在まで近畿地協の役員をやってきた。

その間、主として事務局長を務めた。議長で言うと豊中の斎藤さん、和歌山の中川さん、不動の大平さん、豊中の富士野さん、金融ユニオンの浦野さん、泉州の岡野さんの6名の議長の「女房役」をやらせてもらった。長い年月、役員をさせてもらったが、食べ物で言えば賞味期限というか、消費期限ぎりぎりのところまで役員として務めさせてもらったと思う。

京都北都で企業合併に伴って統一組合の結成に参画をした。宮津ロイヤルホテルで九百数十名の組織とすることができた、あの感激は今も忘れることができない。

特筆すべきは、企業の合併前に統一組合を結成するという事だった。理論的に言っても「資本からの独立」という労働組合の原則を実践したといえると思う。

合併の都度、未加盟・未組織の仲間を迎え入れたことが歴史的な偉業だと思う。

職場のたたかいでは42歳で、くも膜下で突然倒れ、失明をした支店長を60歳の定年まで支え続けたこと、パワハラによってメンタル不全になった仲間を4年間の休職期間を乗り越えて職場復帰を実

現できたこと、職場復帰にあたって「協定書を組合のほうで作ってくれないか」と経営者に言わしめるところまで押し込めた取り組みとなった。

私が55歳の役職定年になり、約3割の賃金（額面で言えば12万円）カットの申入れがなされた時に、理事長宛の手紙を書き、それを「豪快ニュース」に掲載し職場世論に訴える取り組みをした結果、金庫は賃金カットを強行できなかった。55歳から60歳まで単純計算で650万円削減されずに済んだことになる。

また、合併後の退職金の取り扱いについて「おかしい」という部分が発覚し、組合で取り組みを進めた結果、数億円の成果を収めることができた。新退職金制度についても、401kの導入を、近畿厚生局などとの交渉も入れながら反撃をして、導入を阻止できた。

阿部（事務局長）さんに対する懲戒処分攻撃に対しても委任団交などを繰り返し、それなりの成果をあげることができた。福知山信金や不動信金などの争議支援にも参加し、北海道の函館信金従組の組合解散を思いとどまる取り組みにも現地に飛んで参加してきた。

この半世紀近い組合活動の中で、勝ち得たノウハウを生かして、残りあと20年ぐらいの人生を地域の中でがんばっていききたいと思う。

いつの時代にも困難は付き物であり、その困難を乗り越えるたたかいに挑んでこそ、組織の前進、ひとりひとりの労働者の成長があると思う。目の前の状況に一喜一憂することなく、金融労連・近畿地協の前進に向けて幹部を中心にご奮闘されることを祈念して、退任のあいさつとさせていただきます。

## ひとことニュース

- 10・4「大阪シティ信金尾形さんを支援する会」発足。会長に辻昇三さん。個人・団体とも年会費1口1,000円（多くの皆さんの加入を!）
- 10・17 第12回龍谷大学就職説明会に金融労連から3名参加、「売り手市場」「休めないバイト」などの影響で学生の参加減少
- 10・22 金融労連東京地連と同・関信支部が組織合同して関東地協を結成
- 10・24 渡島信金定年再雇用拒否裁判判決 函館地裁は定年再雇用拒否を「不法行為」と認めながら、雇用認めず慰謝料50万円の「一部勝訴判決」 中原委員長は控訴
- 11・4 京都北都信金従組第15回定期大会開催へ（宮津ロイヤルホテル）
- 12・6大阪争議支援総行動に大阪シティ信金争議もエントリー